

書籍の紹介

この度、いわき市の図書館で次の図書を見つけましたのでご案内させていただきます。
「黒木 亮」の「ザ・原発所長」上・下巻で、小説ですから福島原発は、「奥羽原発」と吉田所長は「富士祥夫」等と置き換えてありますが、実態そのままのようです。上巻は所長のプロフィールが主で、下巻は爆発時の生々しさから食道がんで逝去迄の記載です。

原発の専門用語が多く、素人には分からない点も多いですが、第一原発と本部や総理とのやり取りなども具体的に記載されています。

やはり、海面から35メートルの地盤を、海から給水するのに費用の関係から15メートル削って10メートルに電源を設置したのが、津波の被害を受ける原因のようでした。東北電力の女川原発設置に当たっては、当時の副社長が過去の津波経験から、海面から15メートルを譲らず、結局14.5メートルに設置し被害を免れたようです。

現在当地は避難者の帰還問題や汚染水の処理問題等があります。

特に、汚染水問題について、国は風評面で浜通りの人達に理解を求めようと説明会を実施していますが、むしろ福島県以外の消費者に数多く説明会を実施すべきであると思っています。

もし既にお読みでしたらお許しください。 以上 山形支部 遠藤 佐 敏



以前、友の会ホームページなどでご紹介しました、科学映像館所蔵の「黎明 福島原子力発電所建設記録 調査篇」に建設初期段階の調査内容が克明に記録されています。クリックしご覧ください。

広報担当より
